

岸和田市産業教育審議会 会長 様

岸和田市附属機関条例ならびに岸和田市産業教育審議会規則に基づき、次に掲げる事項について、別紙理由を添えて諮問します。

岸和田市立産業高等学校の今後の教育について

令和元年6月10日

岸和田市教育委員会 教育長 樋口 利彦

(理 由)

岸和田市立産業高等学校は、創立 112 年を迎え、創造・勤労・協力を校訓として、これまで地域の産業を中心に、社会で活躍する有為な人材を数多く世に送り出してきました。

高度情報化社会を軸に、技術革新を伴いながら、便利でより快適な生活が実現し、また人々の生活が様変わりしていくのと同時に、産業の構造も時代とともに変化していくことが予想されます。地域の産業に有為な人材を輩出する、ということ考えた場合、そこで求められる資質や能力もまた今後変化していく、という状況にあります。

このような中、全日制定時制併置校である岸和田市立産業高等学校では、全日制課程では商工併置校として、定時制課程では定通併修の学校として、時代の移り変わりや生徒の多様性をふまえ、実業高等学校としての役割が果たせるよう努めてまいりました。全日制課程における卒業時の進路状況は、一定の就職率は維持しているものの、大学や専門学校への進学率が就職率を上回っています。進学希望者の対応を含め、生徒一人ひとりの個性を重視した教育の検討が必要であります。一方、定時制課程においては生徒の多様性に対応しているものの、在籍生徒数が減少しているという現状があります。社会的ニーズもふまえ、定時制課程としての教育形態の在り方の検討が必要です。

国や府においても、学習指導要領が改訂され、少子化の状況が進む中、様々な改革が進められています。中教審においても、新時代に対応する高等学校教育の在り方について審議される予定です。その中で、社会の変化をふまえ、実業高等学校として地域を中心に社会で活躍できる人材の育成を図るため、岸和田市立産業高等学校の将来を見通した教育計画を策定することは重要な課題であります。

以上のことを踏まえ、これからの在り方について検討するため、岸和田市立産業高等学校の今後の教育について諮問を行うものであります。

- (1) 社会の変化をふまえた岸和田市立産業高等学校の教育の在り方
- (2) 地域の実情や生徒の多様性に対応した教育活動の在り方
- (3) それらの教育活動に向け、どのように教育計画を展開していくことが効果的か

以上がご審議いただきたい事項でございますが、これらに関連する事項も含め、幅広くご検討いただきますよう、よろしくお願いいたします。